



NIPPON BEARING

7月30日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 日本の洋上風力発電、現在計画中の設備の高さ（予定）をビルに例えると？

- ① 50階（約200m） ② 38階（約150m） ③ 25階（約100m）

【答え】 ① 50階（約200m）

※1階あたり4mで計算

【解説】

《カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現》、最近よく耳にするこれらの言葉は、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」という日本の目標を示したものです。

その実現に向けて期待されているのが、再生可能エネルギーです。

温室効果ガスを排出せずに行われるエネルギーで、太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスなど、さまざまなものがあります。

中でも洋上風力発電は、最も注目されている再生可能エネルギーの一つです。

現在、日本で稼働している洋上風力発電は僅かですが、続々と建設・設置が計画されています。

風力発電の発電量は、設備の大きさによって変わります。

海面からの最大高さが約120mの設備では、2MW（メガワット）級の発電量

海面からの最大高さが約200mの設備では、8MW（メガワット）級の発電量

場所により設置できる風力発電設備のサイズは異なりますが、大きなものでは海面からブレード先端までの高さは最高で200m、50階建てのビルの高さに相当するものが計画されています。

※ビル1階あたりの高さを4mで計算した場合

出典：国土交通省、令和2年10月「日本海沿岸域等における洋上風力発電の導入促進に向けた取組」

国全体が海に囲まれている日本にとって、洋上風力発電に適した場所は数多くあります。

風力発電に必要な平らな土地が少なく、また資源の乏しい日本にとって、洋上風力発電が未来を支える切り札の一つとなることを期待したいものです。

【企画・協力：榊学研メソッド】